

作成日 2006 年 10 月 26 日

改定日 2020 年 5 月 26 日

安全データシート

1. 【 化学品及び会社情報 】

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 製品名 | ロロックス粒剤 |
| 供給者の会社名称 | 丸和バイオケミカル株式会社 |
| 住所 | 東京都千代田区神田須田町 2-5-2 |
| 担当部門 | 開発本部 登録・環境グループ |
| 電話番号 / FAX | Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323 |
| 推奨用途 | 除草剤 |
| 使用上の制限 | 農薬登録以外の使用は不可 |
| 整理番号 | 13865-05 |

2. 【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類(分類 JIS)

| | | |
|-------|-----------------|------------------|
| 健康有害性 | 生殖細胞変異原性 | 区分 2 |
| | 発がん性 | 区分 1A |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 区分 1(免疫系、呼吸器、腎臓) |
| 環境有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) | 区分 1 |
| | 水生環境有害性 長期(慢性) | 区分 1 |

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による免疫系、呼吸器、腎臓の障害
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き 【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じんを吸入しないこと。
取扱後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。
気分が悪い時は医師の診察/手当てを受けること。
漏出物を回収すること。
【保 管】 施錠して保管すること。
【廃 棄】 内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。
都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

3. 【 組成及び成分情報 】

| | |
|-------------|---|
| 化学物質・混合物の区別 | 混合物 |
| 化学名又は一般名 | リニュロン: 3-(3,4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチル尿素 |

| 成分及び含有量 | | 化審法 No. | 安衛法 No. | CAS No. |
|--------------------------|------------------|----------|-----------|------------|
| <有効成分> | | | | |
| リニュロン | 1.5% | (3)-2193 | 4-(13)-44 | 330-55-2 |
| <その他> | | | | |
| 鉱物質微粉、界面活性剤等 (結晶質シリカ) | 98.5% <72.3%> | (1)-548 | | 14808-60-7 |

4. 【 応急措置 】

| | |
|-----------|---|
| 吸入した場合 | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は医師/中毒情報センターに連絡する。 |
| 皮膚に付着した場合 | 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ/取り除く。皮膚を水で洗う。 |
| 眼に入った場合 | 水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 |
| 飲み込んだ場合 | 直ちに医師/中毒情報センターに連絡する。口をすすぐ。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。 |

5. 【 火災時の措置 】

| | |
|-----------------------|---|
| 適切な消火剤 | 水噴霧、粉末消火薬剤 |
| 使ってはならない消火剤 | 棒状放水 |
| 火災時の特有の危険有害性 | 燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。 |
| 特有の消火方法 | 消火作業は、風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。 |

6. 【 漏出時の措置 】

| | |
|-----------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 多量の場合、人を安全に退避させる。 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、マスク等を着用する。 |
| 環境に対する注意事項 | 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて紙袋又はドラム等に回収する。 |

7. 【 取扱い及び保管上の注意 】

| | |
|-----------|---|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | 取扱いは、換気のよい場所で行う。 屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。 容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。 取扱う場合は、局所排気、又は全体換気設備のある場所で取扱う。 |
| 安全取扱注意事項 | みだりに粉じんが発生しないように取扱う。 |
| 接触回避 | 情報なし |
| 保管 | |
| 安全な保管条件 | 直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。 食品や飲料から離して保管する。 |
| 安全な容器包装材料 | 製品の容器包装材料にて保管する。 |

8. 【 ばく露防止及び保護措置 】

許容濃度等

管理濃度

日本産業衛生学会 (2019 年版)

ACGIH (2018 年版)

設備対策

保護具

呼吸用保護具

手の保護具

眼、顔面の保護具

皮膚及び身体の保護具

粉じん 3.0/(1.19Q+1) (mg/m³) Q:遊離珪酸含有率(%)吸入性結晶質シリカ 0.03mg/m³第1種粉じん(吸入性粉じん:0.5mg/m³、総粉じん:2mg/m³)第3種粉じん(吸入性粉じん: 2mg/m³、総粉じん:8mg/m³)PNOS(吸入性粉塵:吸入性粉塵:3mg/m³、総粉塵:10mg/m³)結晶質シリカ 0.025mg/m³ (TLV-TWA)

取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。

取扱場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

防じんマスク、簡易防じんマスク

保護手袋

保護眼鏡(普通眼鏡型)

保護服、保護長靴

9. 【 物理的及び化学的性質 】

物理状態

色

臭い

融点/凝固点

沸点又は初留点及び沸騰範囲

可燃性

爆発下限界及び爆発上限界

/可燃限界

引火点

自然発火点

分解温度

pH

動粘性率

溶解度

n-オクタノール/水分配係数

(log値)

蒸気圧

密度及び/又は相対密度

相対ガス密度

粒子特性

固体

類白色

情報なし

情報なし

情報なし

情報なし

情報なし

情報なし

情報なし

情報なし

9.37(20°C、20%希釈液)(測定値)

情報なし

情報なし

情報なし

情報なし

見掛け比重 1.01(20°C)(測定値)

情報なし

300~1700µm

10. 【 安定性及び反応性 】

反応性

化学的安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

情報なし

通常温度及び保管条件では安定

情報なし

情報なし

情報なし

情報なし

11. 【 有害性情報 】

急性毒性(経口)

急性毒性(経皮)

急性毒性(吸入)

皮膚腐食性/刺激性

ラット、マウス LD₅₀: ♂ ♀ >5000mg/kg(区分に該当しない)ラット、マウス LD₅₀: ♂ ♀ >2000mg/kg(区分に該当しない)

情報が十分でない(分類できない)

ウサギ:軽度の刺激性を示したが、分類基準に該当しない(区分に該当しない)

| | |
|----------------------|---|
| 眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性 | ウサギ:軽度の刺激性を示したが、分類基準に該当しない(区分に該当しない) |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | 呼吸器感作性 情報が十分でない(分類できない) 皮膚感作性 モルモット:感作性なし(区分に該当しない) |
| 生殖細胞変異原性 | 本製品は鉱物質微粉として天然の鉱物を含み、その中に区分2の石英(結晶質シリカ)を1.0%以上含むため、区分2とした。 |
| 発がん性 | 本製品は鉱物質微粉として天然の鉱物を含み、その中に区分1Aの石英(結晶質シリカ)を0.1%以上含むため、区分1Aとした。 |
| 生殖毒性 | 情報が十分でない(分類できない) |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 情報が十分でない(分類できない) |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 本製品は鉱物質微粉として天然の鉱物を含み、その中に区分1(免疫系、呼吸器、腎臓)の石英(結晶質シリカ)を10%以上含むため、区分1(免疫系、呼吸器、腎臓)とした。 |
| 誤えん有害性 | 情報が十分でない(分類できない) |

12. 【 環境影響情報 】

| | |
|-----------|---|
| 生態毒性 | |
| 魚類 | コイ LC ₅₀ (96h):463mg/L |
| 甲殻類 | オオミジンコ EC ₅₀ (48h):19.3mg/L |
| 藻類 | 緑藻 EbC ₅₀ (72h):0.32mg/L 短期(急性):藻類のEbC ₅₀ 値より、区分1とした。 長期(慢性):急性区分1であり、急速分解性および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。 |
| 残留性/分解性 | 情報なし |
| 生態蓄積性 | 情報なし |
| 土壤中の移動性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | 情報なし |

13. 【 廃棄上の注意 】

| | |
|--|--|
| 化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 | 内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。 都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。 |
|--|--|

14. 【 輸送上の注意 】

| | |
|--|---|
| 国連番号 | 3077 |
| 品名(国連輸送名) | 環境有害物質(固体)(リニユロン) |
| 国連分類 | 9(有害性物質) |
| 容器等級 | Ⅲ |
| 海洋汚染物質 | 該当 |
| MARPOL73/78 附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 | 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。 転倒したり、激突させたりしない。 |
| 国内規制がある場合の規制情報 | 労働安全衛生法、船舶安全法、航空法の規定に従う。 |
| 応急措置指針番号 | 171 |

15. 【 適用法令 】

| | |
|---------------------------|-----------|
| 該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報 | |
| 農薬取締法 | 第 13865 号 |

| | |
|---------------------------|---|
| 労働安全衛生法 | 第 57 条 表示対象物、第 57 条の 2 通知対象物 結晶質シリカ(政令番号165-2) |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) | リニュロン(第1種・174) |
| 毒物及び劇物取締法 | 該当なし |
| 消防法 | 該当なし |

16. 【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】

事故に伴い急性中毒の恐れがある場合

公益財団法人 日本中毒情報センター 中毒110番

| | 一般市民専用電話 (通話料のみ) | 医療機関専用有料電話 (1件につき2000円) |
|--------------------------------|---------------------|----------------------------|
| 大阪中毒110番 (年中無休、24時間対応) | 072-727-2499 | 072-726-9923 |
| つくば中毒 110 番 (年中無休、9～21 時対応) | 029-852-9999 | 029-851-9999 |

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常の見直しを対象としております。